

青森県経済統計報告

令和5年11月1日

企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（令和5年10月1日現在）…………… 1

県人口 1,184,558人（対前月1,263人減少）	
自然動態	1,252人減少（出生者数 439人、死亡者数 1,691人）
社会動態	11人減少（転入者数 1,304人、転出者数 1,315人）

2 本県の経済動向（令和5年8月・9月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、物価上昇などの影響がみられるものの、持ち直している。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 ・令和5年8月の**青森県鉱工業生産指数**（平成27年=100）は、季節調整済指数が94.5で、前月比2.2%の低下となり、3カ月連続で前月を下回った。また、原指数は86.7で、前年同月比1.4%の上昇となり、2カ月ぶりで前年同月を上回った。 … 2
- (2-2) 雇用労働 ・令和5年8月の**定期給与**は227,487円で前年同月比1.1%増となった。 … 3
・**総実労働時間**は142.6時間で前年同月比0.8%増、**所定外労働時間**は7.1時間で前年同月比13.4%減となった。
・令和5年9月の**有効求人倍率**（季節調整値）は1.16倍となり、30カ月連続で1倍を上回った。
- (2-3) 物 価 令和5年9月の**青森市消費者物価指数**（令和2年=100）は、総合指数が107.9となり、前月比0.6%の上昇、前年同月比3.4%の上昇となった。また、生鮮食品を除く総合指数は107.3となり、前月比0.2%の上昇、前年同月比3.1%の上昇となった。 … 5
- (2-4) 個人消費 ・令和5年9月の**百貨店・スーパー販売額**は、149億円で全店舗ベースが前年同月比3.4%増となり、15カ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比3.4%増となり、15カ月連続で前年同月を上回った。
・令和5年9月の軽乗用車を含めた**乗用車新車登録・届出台数**は3,807台で、前年同月比13.0%増となり、9カ月連続で前年同月を上回った。
・令和5年9月の主な観光施設の**観光入込客数**は、87万2千人で前年同月比19.1%増となり、18カ月連続で前年同月を上回った。また、主な宿泊施設の**宿泊者数**は、21万9千人で前年同月比9.5%増となり、9カ月連続で前年同月を上回った。 … 6
- (2-5) 建 設 ・令和5年9月の**新設住宅着工戸数**は576戸で、前年同月比30.6%増となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。 … 8
・令和5年9月の**公共工事請負金額**は177億6,500万円で前年同月比4.3%増となり、5カ月連続で前年同月を上回った。
- (2-6) 企業倒産 令和5年9月の**企業倒産**は、件数は4件で前年同月比300.0%増となった。負債総額は15億200万円で前年同月比1432.7%増となり、2カ月連続で前年同月を上回った。 … 8

（3）景気動向指数C I（令和5年8月分）…………… 9

先行指数	120.0（前月を12.8ポイント上回り、3カ月ぶりに上昇した）
一致指数	85.4（前月を0.6ポイント下回り、2カ月連続で下降した）
遅行指数	99.9（前月を2.9ポイント上回り、4カ月ぶりに上昇した）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（令和5年10月期）…………… 10

3カ月前と比べた景気の現状判断D I ……	52.6（前期比10.5ポイント低下、3期連続で50を上回る）
3カ月後の景気の先行き判断D I ……	47.7（現状判断D I と比べ4.9ポイント低下）

1 青森県の推計人口(令和5年10月1日現在)

【概況】

現在の本県推計人口は、1,184,558人で、対前月1,263人の減少となった。

○自然動態

出生者数が439人、死亡者数が1,691人で、1,252人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1,304人、転出者数が1,315人で、11人の減少となった。

総人口の推移

(単位:人)

	総数	男	女	対前月 増減率	増減数	自然 増減数	出生者数	死亡者数	社会 増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.10.1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
令2.10.1	1,237,984	583,402	654,582	-	-70,281	-	-	-	-	-	-
4.10.1	1,204,343	567,893	636,450	-0.084%	-1,013	-1,082	519	1,601	69	1,448	1,379
4.11.1	1,203,253	567,491	635,762	-0.091%	-1,090	-1,207	501	1,708	117	1,329	1,212
4.12.1	1,202,030	566,913	635,117	-0.102%	-1,223	-1,273	484	1,757	50	1,152	1,102
5.1.1	1,200,464	566,223	634,241	-0.130%	-1,566	-1,534	470	2,004	-32	1,074	1,106
5.2.1	1,198,490	565,310	633,180	-0.164%	-1,974	-1,634	498	2,132	-340	941	1,281
5.3.1	1,196,789	564,485	632,304	-0.142%	-1,701	-1,329	441	1,770	-372	977	1,349
5.4.1	1,190,685	561,430	629,255	-0.510%	-6,104	-1,294	491	1,785	-4,810	3,360	8,170
5.5.1	1,190,195	561,336	628,859	-0.041%	-490	-1,099	480	1,579	609	3,214	2,605
5.6.1	1,189,091	560,764	628,327	-0.093%	-1,104	-1,171	515	1,686	67	1,333	1,266
5.7.1	1,188,044	560,321	627,723	-0.088%	-1,047	-1,079	488	1,567	32	1,220	1,188
5.8.1	1,186,920	559,830	627,090	-0.095%	-1,124	-1,048	477	1,525	-76	1,544	1,620
5.9.1	1,185,821	559,294	626,527	-0.093%	-1,099	-1,312	509	1,821	213	1,723	1,510
5.10.1	1,184,558	558,746	625,812	-0.107%	-1,263	-1,252	439	1,691	-11	1,304	1,315

9月中の人口動態の推移

(単位:人)

	年月	平25.9	26.9	27.9	28.9	29.9	30.9	令元.9	2.9	3.9	4.9	5.9
自然 動態	出生者数	750	831	736	742	721	642	569	547	564	519	439
	死亡者数	1,273	1,434	1,328	1,336	1,286	1,351	1,416	1,409	1,522	1,601	1,691
	自然増減数	-523	-603	-592	-594	-565	-709	-847	-862	-958	-1,082	-1,252
社会 動態	県外からの 転入者数	1,563	1,528	1,521	1,478	1,578	1,210	1,592	1,292	1,423	1,448	1,304
	県外への 転出者数	1,498	1,491	1,622	1,412	1,429	1,403	1,331	1,276	1,211	1,379	1,315
	社会増減数	65	37	-101	66	149	-193	261	16	212	69	-11
	増減数計	-458	-566	-693	-528	-416	-902	-586	-846	-746	-1,013	-1,263

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27、令和2年は国勢調査人口(確定値)。

※2 令和2年11月1日以降の人口は、令和2年国勢調査人口(確定値 総務省統計局 令和3年11月30日)を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27、令和2年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口=前月の人口+自然増減数(出生者数-死亡者数)+社会増減数(県外からの転入者数-県外への転出者数)

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

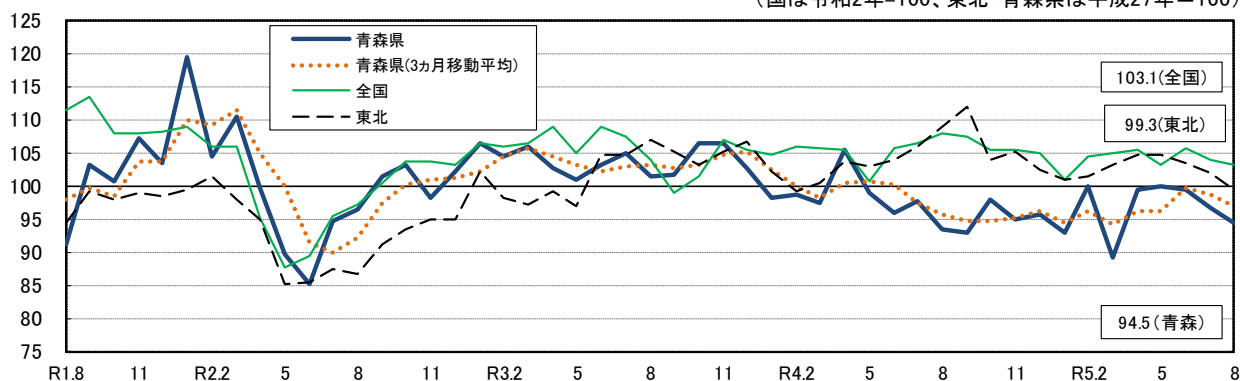
(2-1) 生産動向

令和5年8月の青森県鉱工業生産指数(平成27年=100)は、季節調整済指数が94.5で、前月比2.2%の低下となり、3ヵ月連続で前月を下回った。また、原指数は86.7で、前年同月比1.4%の上昇となり、2ヵ月ぶりで前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、化学工業、食料品工業、電気機械工業等が上昇に寄与した一方、電子部品・デバイス工業、輸送機械工業、業務用機械工業等が低下し、鉱工業全体では2.2%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

(国は令和2年=100、東北・青森県は平成27年=100)



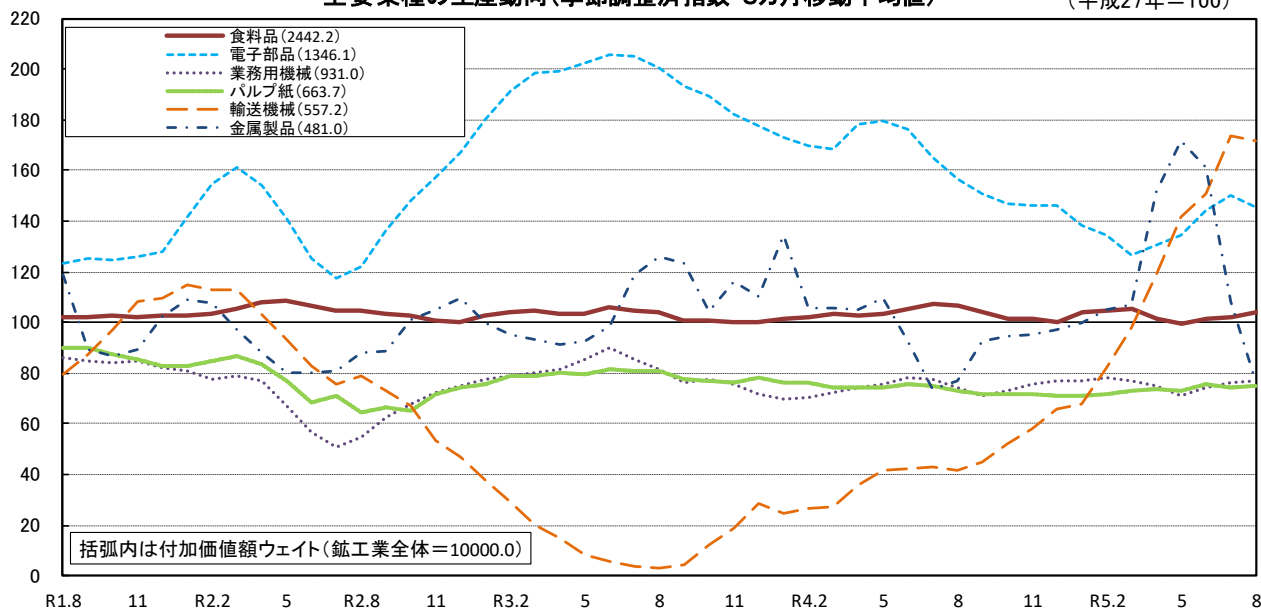
◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 -2.2%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
化学工業	141.7	247.1	電子部品・デバイス工業	-19.5	-274.6
食料品工業	6.2	100.0	輸送機械工業	-17.1	-126.2
電気機械工業	14.3	47.2	業務用機械工業	-14.8	-71.9
生産用機械工業	24.9	11.3	金属製品工業	-11.7	-32.1
パルプ・紙・紙加工品工業	3.3	10.1	窯業・土石製品工業	-8.2	-15.8

※寄与率とは、総合指数の上昇(低下)に対する、業種ごとの影響度を構成比で示したものであり、ポイント差とウエイトとの総合的な大きさで決まる。

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3ヵ月移動平均値)

(平成27年=100)



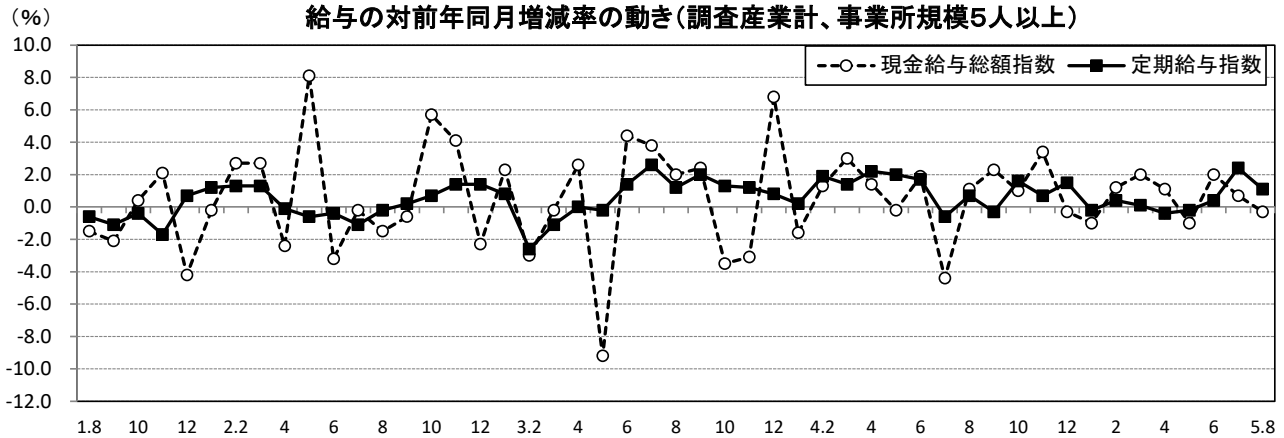
資料: 県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

令和5年8月の定期給与は227,487円で、定期給与指数（令和2年=100）では102.3となり、前年同月比1.1%増と3カ月連続の増（現金給与総額242,042円、現金給与総額指数92.6、前年同月比0.3%減）となった。

総実労働時間は142.6時間で、総実労働時間指数は96.8となり、前年同月比0.8%増と2カ月連続の増となった。このうち、所定外労働時間は7.1時間で、所定外労働時間指数は75.5となり、前年同月比13.4%減と15カ月連続の減となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」

給与及び労働時間の全国との比較（調査産業計、事業所規模5人以上）

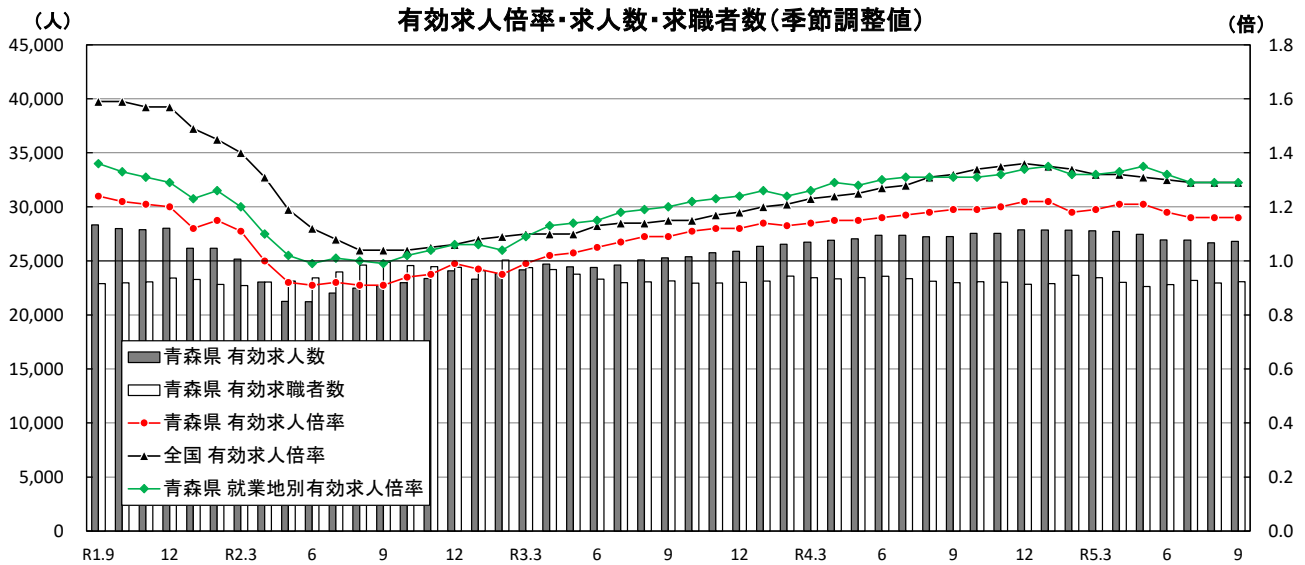
	実 数		指数 (R2=100)		対前年同月増減率	
	青森県	全 国	青森県	全 国	青森県	全 国
現金給与総額	242,042 円	282,700 円	92.6	88.8	-0.3	1.1 %
定期給与	227,487 円	270,082 円	102.3	103.0	1.1	1.6 %
特別給与	14,555 円	12,618 円	—	—	—	-5.4 %
総実労働時間	142.6 時間	132.3 時間	96.8	97.9	0.8 %	0.0 %
所定内労働時間	135.5 時間	122.9 時間	98.2	97.6	1.8 %	0.1 %
所定外労働時間	7.1 時間	9.4 時間	75.5	102.2	-13.4 %	0.0 %

- (注) 1. 「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与（所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与）を含みます。
2. 「特別給与」とは、給与の差額追給額（ベースアップ分）、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与（ボーナス）等のことです。
3. 「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。
4. 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。
5. 令和4年1月分から各指数は基準更新により令和2年平均が100となるよう改訂しています。
6. 全国数値は令和5年8月分速報値です。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」

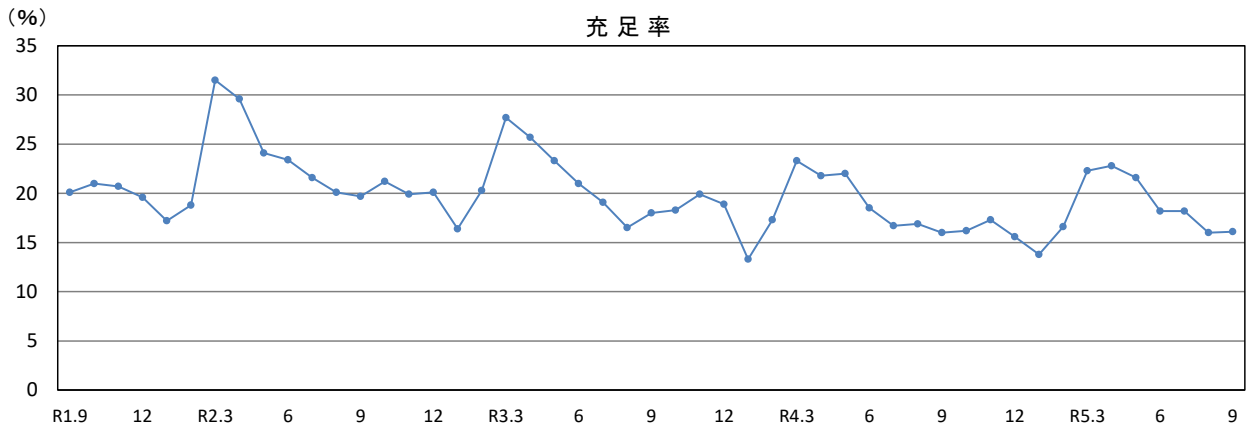
(2-2-2) 有効求人倍率

令和5年9月の有効求人倍率（季節調整値）は1.16倍となり、30カ月連続で1倍を上回った。就業地別有効求人倍率は1.29倍となった。



(参考) 充足率（新規学卒者を除きパートタイムを含む）

令和5年9月の充足率は16.1%で、前年同月を0.1ポイント上回った。



(2-3) 物価

令和5年9月の青森市消費者物価指数(令和2年=100)は、総合指数が107.9となり、前月と比べ0.6%の上昇、前年同月と比べ3.4%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は107.3となり、前月と比べ0.2%の上昇、前年同月と比べ3.1%の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は105.7となり、前月と比べ0.3%の上昇、前年同月と比べ3.9%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ0.6%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料、被服及び履物などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ3.4%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料、交通・通信などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

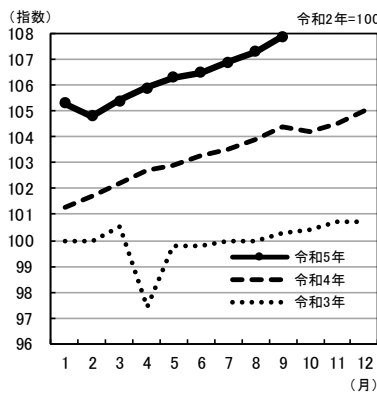


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

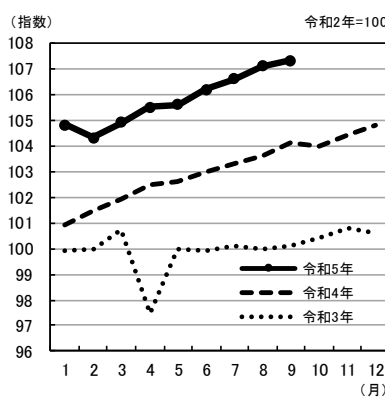
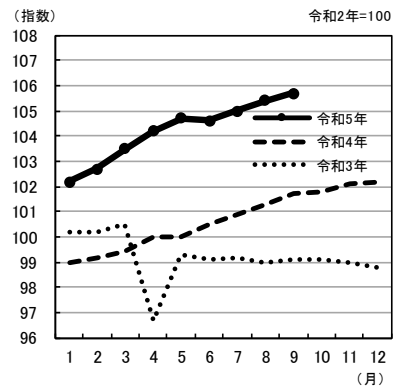


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(令和2年=100)

	総合	食料			住居	水道	エネルギー	家具	被服	被服	保健	健康	交通	通信	教育	教養	娯楽	諸費
		生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合														
当月指数	107.9	107.3	105.7	102.9	114.8	120.7	104.7	115.3	109.1	107.1	100.4	97.3	99.2	109.3	105.2			
前月比(%)	0.6	0.2	0.3	0.2	1.6	8.3	0.1	▲0.7	0.1	5.3	▲0.1	0.2	0.0	▲0.5	0.3			
寄与度	—	0.18	0.22	0.14	0.48	0.40	0.03	▲0.08	0.00	0.16	0.00	0.03	0.00	▲0.04	0.02			
前年同月比(%)	3.4	3.1	3.9	2.7	7.6	9.1	2.1	▲4.9	3.1	4.6	1.9	4.3	▲0.1	4.5	2.2			
寄与度	—	2.95	3.25	1.68	2.17	0.45	0.44	▲0.57	0.12	0.14	0.08	0.54	0.00	0.36	0.13			

資料:県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

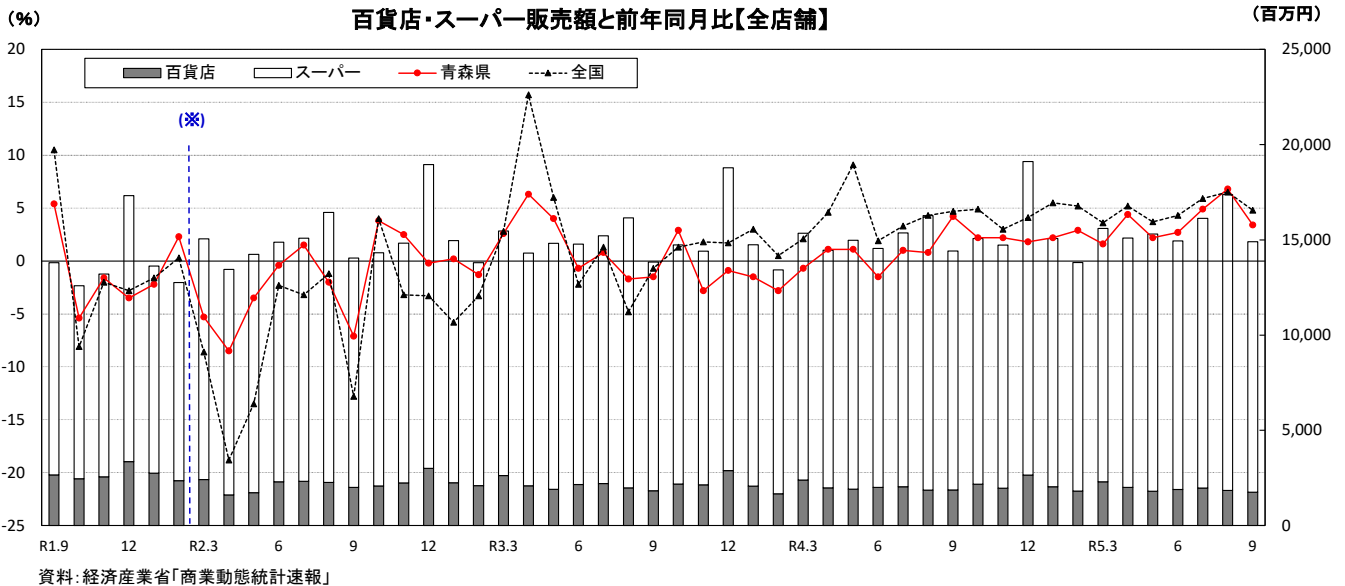
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

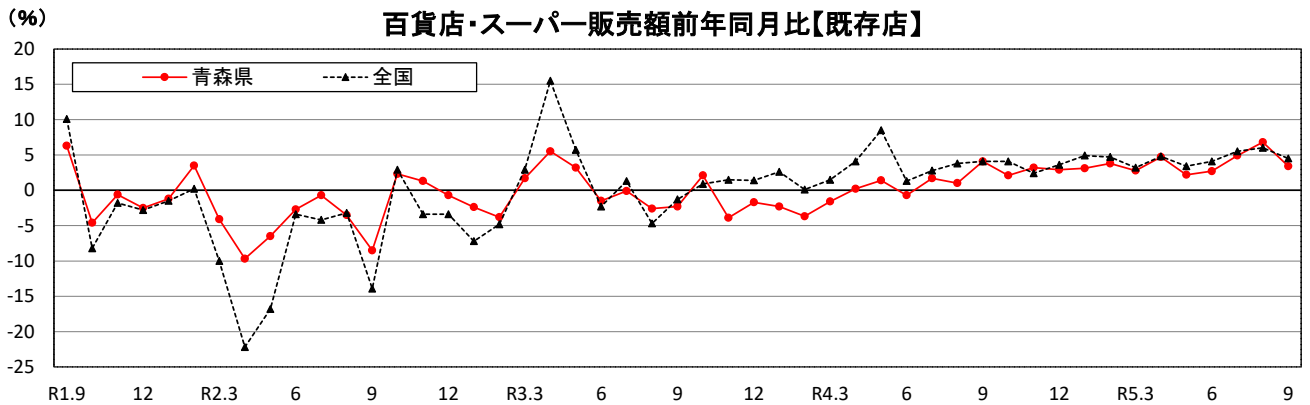
(2-4) 個人消費

(2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

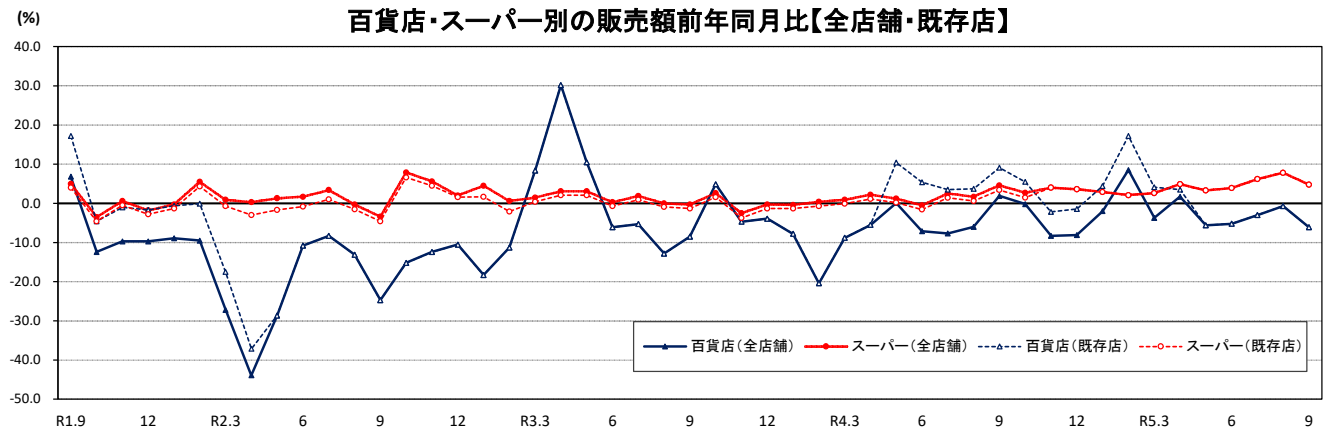
令和5年9月の百貨店・スーパー販売額は、149億円で全店舗ベースが前年同月比3.4%増(令和元年同月比1.4%減)となり、15カ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比3.4%増となり、15カ月連続で前年同月を上回った。



※前年同月比は、調査対象事業所の見直しが行われた場合、この見直しによるギャップを調整するリンク係数で処理した数値で計算されている。
R2.3月からはH28年経済センサス・活動調査に基づいた対象事業所の見直しがなされ、スーパー及び百貨店・スーパー合計額の前年同月比について、そのギャップを調整するリンク係数で処理された数値となっている。

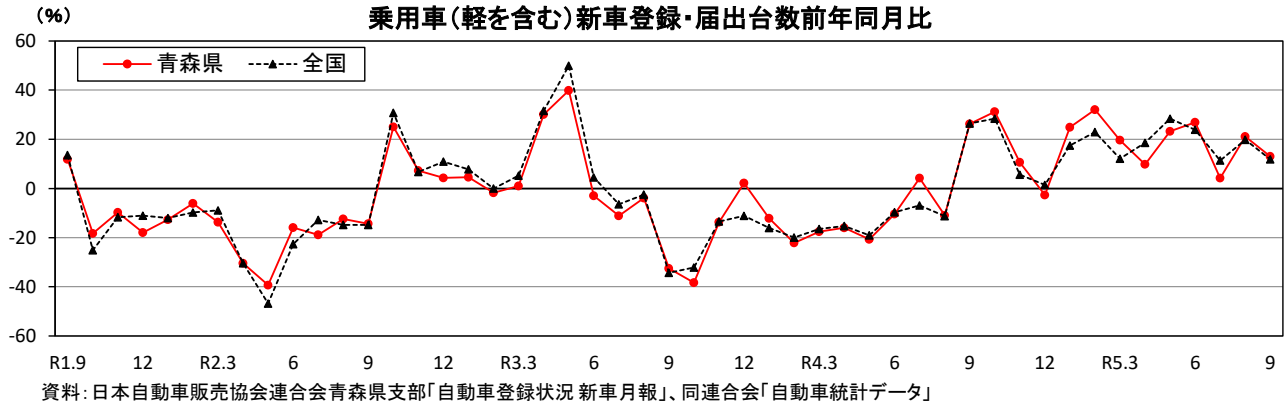


※百貨店は、従業者50人以上の小売事業所のうち、次のスーパーに該当しない事業所であって、かつ、売場面積が1,500平方メートル以上の事業所をいう。スーパーは、売場面積の50%以上についてセルフサービス方式を採用している事業所であって、かつ、売場面積が1,500平方メートル以上の事業所をいう。ただし、商業動態統計調査の家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンターの調査対象企業の傘下事業所で、調査対象となっていない事業所を除く。
そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている事業所をいう。



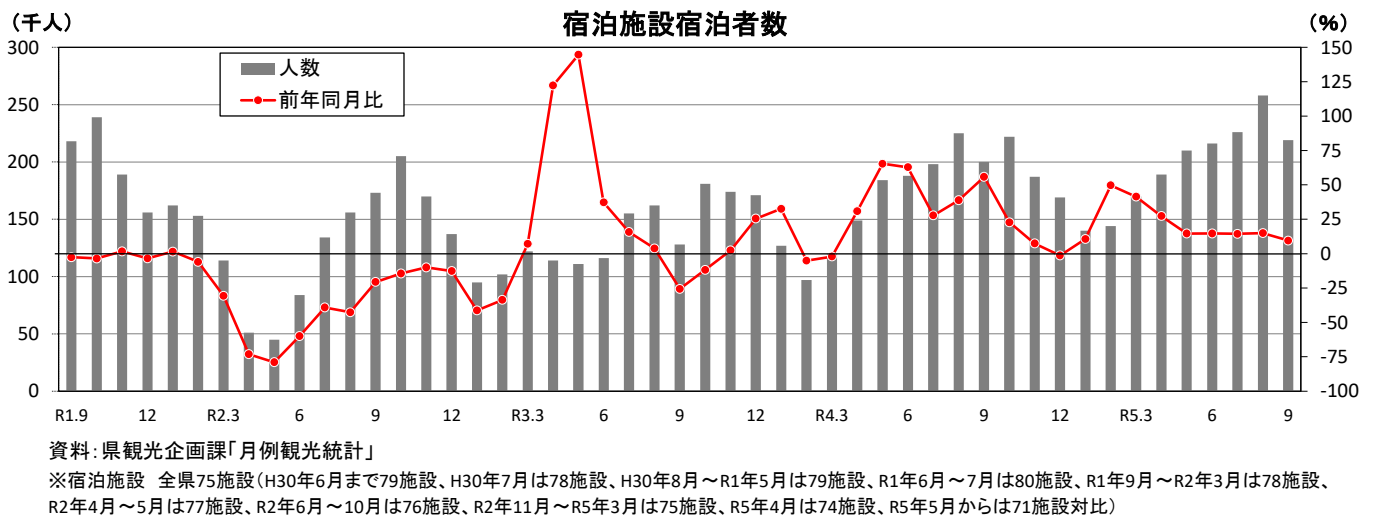
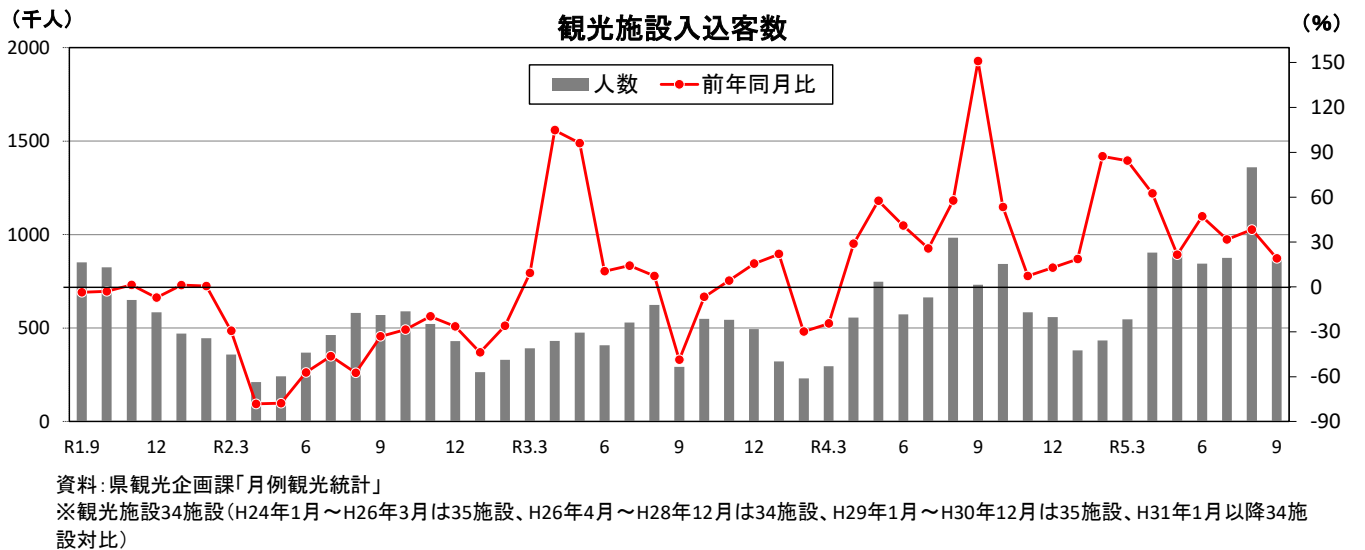
(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

令和5年9月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は3,807台で、前年同月比13.0%増(令和元年同月比17.6%減)となり、9カ月連続で前年同月を上回った。普通車、小型車及び軽乗用車が増加したことによる。



(2-4-3) 観光入込客数・宿泊者数

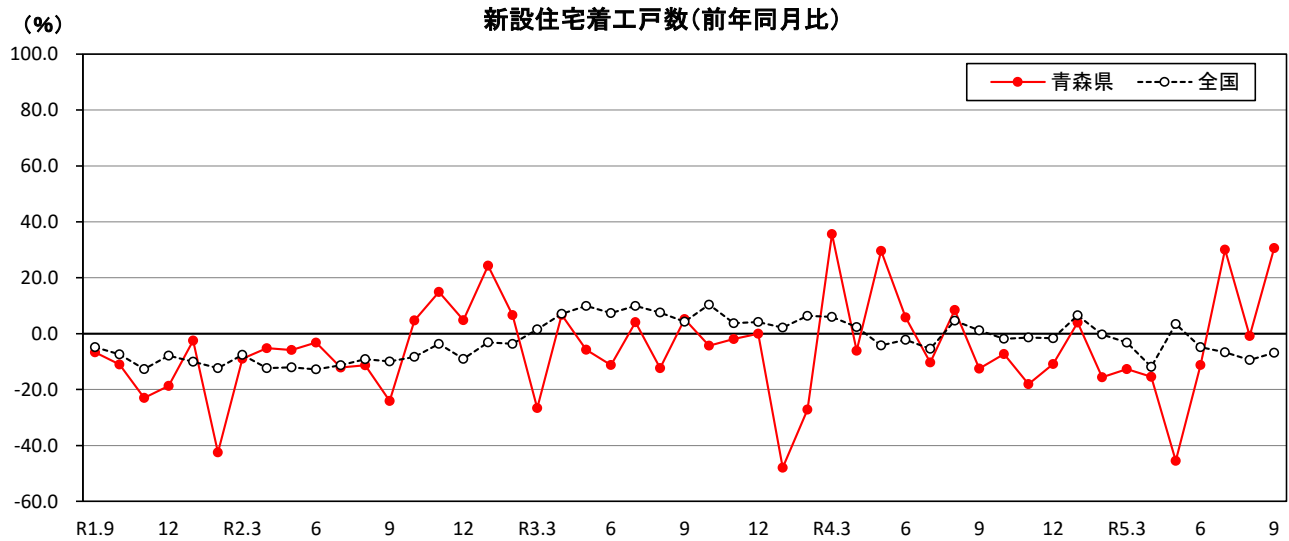
令和5年9月の主な観光施設の観光入込客数は、87万2千人で前年同月比19.1%増(令和元年同月比2.3%増)となった。また、主な宿泊施設の宿泊者数は、21万9千人で前年同月比9.5%増(令和元年同月比3.4%増)となった。観光入込客数は18カ月連続で前年同月を上回り、宿泊者数は9カ月連続で前年同月を上回った。



(2-5) 建設

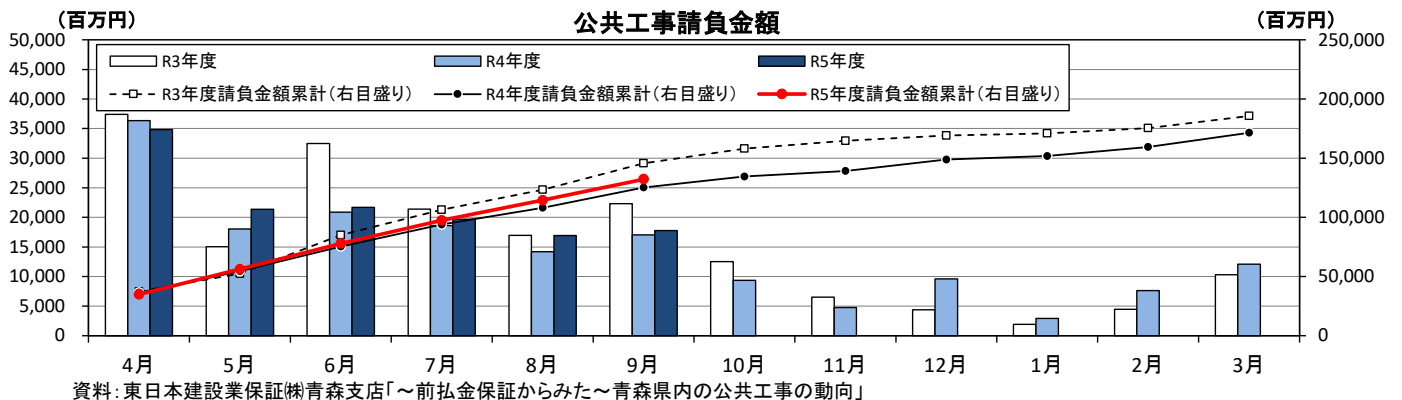
(2-5-1) 住宅建設

令和5年9月の新設住宅着工戸数は576戸で、前年同月比30.6%増となった。持家、貸家が増加したことによる。



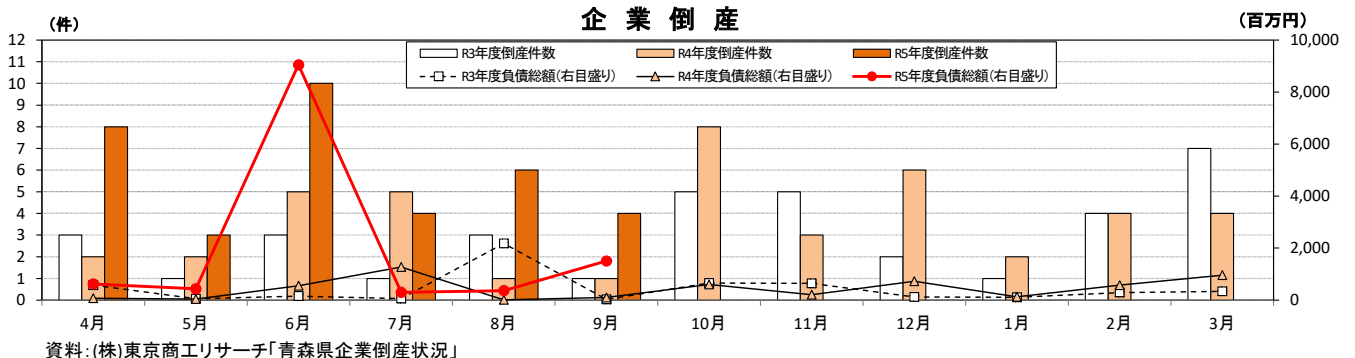
(2-5-2) 公共事業

令和5年9月の公共工事請負金額は177億6,500万円の前年同月比4.3%増となり、5カ月連続で前年同月を上回った。



(2-6) 企業倒産

令和5年9月の企業倒産は、件数は4件で前年同月比300.0%増となった。負債総額は15億200万円の前年同月比1432.7%増となり、2カ月連続で前年同月を上回った。



(3) 青森県景気動向指数

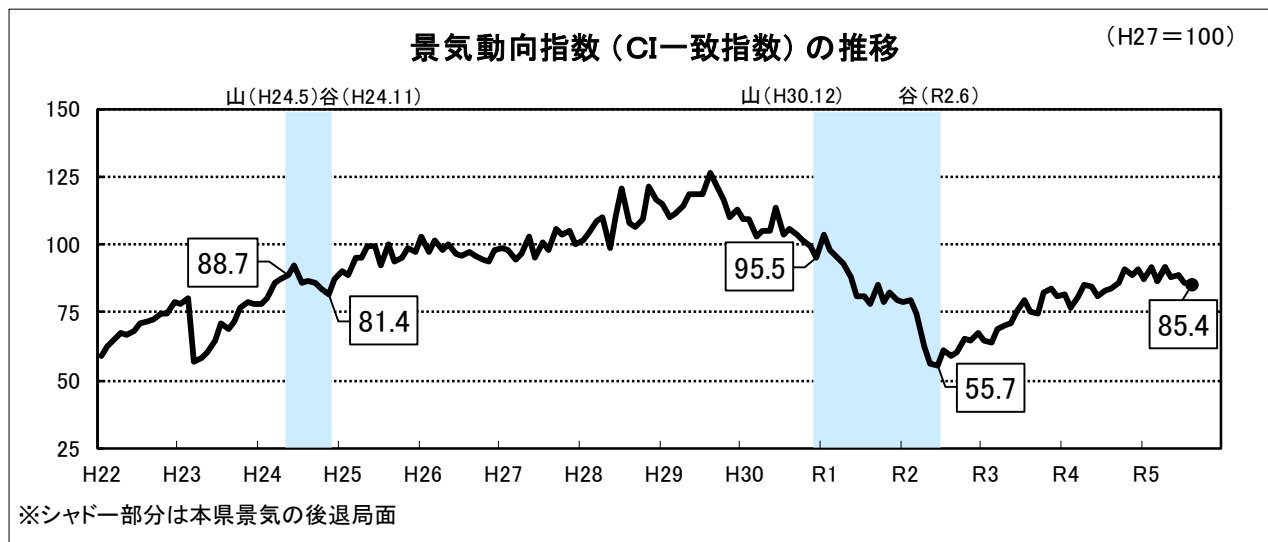
令和5年8月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数120.0、一致指数85.4、遅行指数99.9となった。

先行指数は、前月を12.8ポイント上回り、3カ月ぶりに上昇した。

一致指数は、前月を0.6ポイント下回り、2カ月連続で下降した。

遅行指数は、前月を2.9ポイント上回り、4カ月ぶりに上昇した。

8月の一致指数は、流通、生産、雇用関連の指標がマイナスになったことから下降した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
新規求人倍率（全数）	6.63	3カ月ぶり	企業倒産件数（逆サイクル）	-1.96	2カ月ぶり
乗用車新車登録届出台数	4.02	2カ月ぶり	新設住宅着工床面積	-1.43	3カ月ぶり
建築着工床面積	3.57	2カ月ぶり	生産財生産指数	-0.12	2カ月連続
中小企業景況DI	1.61	2カ月連続			
日経商品指数（42種）	0.57	2カ月連続			
一致系列					
百貨店・スーパー販売額（既存店）	0.56	3カ月連続	輸入通関実績（八戸港）	-0.91	3カ月ぶり
観光入込客数	0.55	2カ月ぶり	鉱工業生産指数	-0.40	3カ月連続
有効求人倍率（全数）	0.01	4カ月ぶり	所定外労働時間指数（全産業）	-0.24	3カ月ぶり
			投資財生産指数	-0.11	3カ月連続
遅行系列					
りんご消費地市場価格	3.33	2カ月連続	定期給与指数（全産業：実質）	-1.77	2カ月連続
家計消費支出（勤労者世帯：実質）	0.66	4カ月ぶり			
公共工事請負金額	0.43	2カ月ぶり			
有効求職者数（全数）（逆サイクル）	0.30	2カ月ぶり			
青森市消費者物価指数（総合）	0.02	2カ月連続			
(参考) 青森県景気動向指数（DI）					
先行指数	62.5%	（2カ月連続で50%を上回った）			
一致指数	42.9%	（4カ月連続で50%を下回った）			
遅行指数	71.4%	（4カ月ぶりに50%を上回った）			

青森県景気ウォッチャー調査（令和5年10月期）

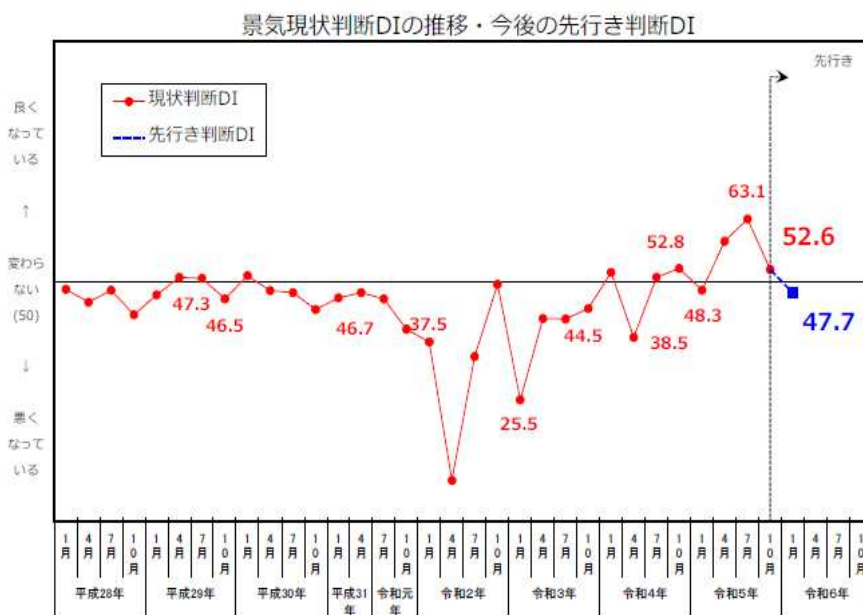
現状判断DIは、物価上昇や光熱費等のエネルギー価格の高騰に伴う先行きの不透明さに対する懸念や、消費の落ち込みを指摘する声が多くあり、前期比10.5ポイント低下の52.6となった。

先行き判断DIは、最低賃金の上昇に伴い、消費の増加を期待する声があったものの、物価上昇とこれから冬を迎える中での光熱費等の価格高騰による家計負担の増加を懸念する声や、これに伴い消費行動の低迷が今後も続くことが予想されるといった声があり、現状判断DIと比較して4.9ポイント低下の47.7となった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、景気の横ばいを示す50を3期連続で上回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50を下回った。

（調査期間 令和5年9月29日～10月18日 回答率 97%）



● 3カ月前と比べた景気現状判断

前期調査と比べると、「良くなっている」が4.1ポイント低下、「やや良くなっている」が19.6ポイント低下、「変わらない」が8.2ポイント上昇、「やや悪くなっている」が16.5ポイント上昇、「悪くなっている」が1.0ポイント低下となった。全体では52.6となり、前期から10.5ポイント低下したものの、景気の横ばいを示す50を3期連続で上回った。判断理由では、イベントや祭りが通常開催されたこと等に伴い、観光客などの人の動きが増加しているといった声があった。一方で、物価上昇や光熱費等のエネルギー価格の高騰に伴う先行きの不透明さに対する懸念や、消費の落ち込みを指摘する声も多くみられた。

前期調査と比べて、全ての地区で減少したものの、東青、下北で景気の横ばいを示す50を上回った。

● 3カ月後の景気の先行き判断

今期調査の現状判断DIと比べると、「良くなる」が1.0ポイント低下、「やや良くなる」が9.3ポイント低下、「変わらない」が6.2ポイント上昇、「やや悪くなる」が同水準、「悪くなる」が4.1ポイント上昇となった。全体では47.7となり、今期調査の現状判断DIと比べて4.9ポイント低下し、景気の横ばいを示す50を下回った。判断理由では、最低賃金の上昇に伴い、消費の増加を期待する声があった。

一方で、物価上昇とこれから冬を迎える中での光熱費等の価格高騰による家計負担の増加を懸念する声や、これに伴い消費行動の低迷が今後も続くことが予想されるといった声があった。

今期調査の現状判断DIと比べて、東青、県南、下北の3地区で低下し、下北以外の地区で景気の横ばいを示す50を下回った。

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

○3カ月前と比べた景気の現状判断理由

◎	観光地、飲食店が回復し、ねぶた祭り、クルーズ船等人流がかなりあったため物(商品=お金)が動いた。(卸売業=東青)
○	以前のようにコロナの増減に人の動きが影響されなくなってきたため。お盆の帰省、夏祭りによる人の動きもコロナ前に戻りつつあることで経済が回っている感じがするため。(スーパー=東青)
○	県外や国外からのお客様が増えている。(一般飲食店=津軽)
○	人流の増加で管内中心街の飲食店の売上げ増加の継続、紅葉シーズンを控え、ホテルの予約状況が好調である。(経営コンサルタント=県南)
○	コロナも第5類へ移行となり、各種イベントや祭りの再開、帰省・旅行など人の往来も活発になったことで外食産業も持ち直し、3ヶ月前と比較すると回復傾向。(建設=県南)
□	今年の冬がどのような冬になるのか未だに想像できないです。食料品や灯油・ガソリンなどの燃料代の物価高がどのようなカーブを描いていくのか、それに対して政府がどのような対処をとるのかによっても事は大きく変化してしまうと思っているからです。(タクシー=東青)
□	物の値段が上がっているだけで、客数は減っているため。(コンビニ=津軽)
□	インフレの恩恵により売上は表面的には伸びているが、光熱費を始めとした経費担が大きいのしかかり、景気が好転したという段階には達していないと感じる。(スーパー=県南)
□	原料の値上り等による価格の値上げによって、来客はあるものの購入額は低めかと感じます。(食料品製造=下北)
□	物価の上昇、燃料費の高止まりによる生活費の上昇で、購買意欲を抑えさせたままの状態が続いている。(新聞社求人広告=東青)
△	コロナ感染が落ち着き、観光客が増えてきている実感はあるが、物価が上がっているせいか、地元の人の動きが鈍いような気がする。(ガソリンスタンド=下北)
△	寒さや冬場を前に消費者の節約、俊約志向が目立つ。食料品の値上げに加え、燃料費の高騰・高止まりが暮らしの厳しさに拍車をかけている。(新聞社求人広告=津軽)
△	観光業等、需要が多い(景気の良い)業種業界がある反面、材原料・燃料価格高騰によって厳しい業界もより多く見受けるため。(人材派遣=県南)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

○3カ月後の景気の先行き判断理由

◎	お客様の表情も変わらず明るく、商店街内の人気店に復活した行列も勢いはそのままを保っており、景気回復の流れは続きそうに感じております。ただし、光熱費、物価高騰の影響によるお客様の購買意欲の低下が、常に、景気停滞への不安材料となっています。(商店街=東青)
○	コロナ禍で失われた色んな機会を取り戻そうと思っている人は多いのだと思います。これからの会社や学校などのイベントの打ち上げや、忘年会など今年は何年ぶりかで実施しようと思っている方も多いように思います。(一般飲食店=東青)
○	物価の高止まり感、コロナ5類以降後のサービス業消費の持ち直しなど、消費は緩やかに回復し、なによりも賃金の上昇が今後の消費の後押しを確定するのではと考えます。(家電量販店=津軽)
○	10月に最低賃金が上がればそれなりに良くなる。(タクシー=下北)
□	食品の値上げは続きますが、必要なものは購入する傾向は継続すると思います。また、これから冬を迎え、積雪量、灯油代の価格次第では大きく消費に影響してきます。(スーパー=東青)
□	全てが価格が上がってきてるので、今よりとなると慎重に考えざるを得ない。(旅行代理店=津軽)
□	今よりは悪くはないと思うが、物価高騰による、消費者の消費を抑える気持ちから、すぐに今後の景気が良くなるとは思えない。(タクシー=県南)
□	食材の値上げ、ガソリンの値上げなど消費行動の低下は続くと思える。(家電量販店=県南)
□	これからの3カ月は冬に入るし、灯油もあまり安くなっていないし、物価だっ上がりっぱなしで安くなるような気配もない。(一般飲食店=下北)
□	冬を迎え、燃料費、電気料金の高止まりの心配、物価上昇による生活費の上昇によって消費を控える状態はまだ続くと思う。(新聞社求人広告=東青)
△	物価上昇の影響とこれから冬場になるので燃料費(電気・灯油)などの高騰が影響し消費活動が停滞すると思います。(住宅建設販売=県南)
△	物価が高くなっているため。(レストラン=下北)
△	10月からの最低賃金の上昇を受けて全体的に賃金は上がることになるが、それ以上に食料品等の値上げ、特にこれから灯油・ガソリン代の価格高騰は家計にダメージを与えることとなるでしょう。(経営コンサルタント=津軽)

記号の意味：◎良くなる、○やや良くなる、□変わらない、△やや悪くなる、×悪くなる

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」